



あいさつする太田町長



活発な意見交換が行われた三倉地区・町長と語る会の様子 (三倉総合センター)

町長と語る会 2016 次世代につなぐまちづくり(前半)

住民意見を町政や総合計画に反映

今年3月に新町長となった太田町長は、町民との「対話」による町政を目指し、行政に対するご意見やご提案に耳を傾ける場として「町長と語る会」を開催しました。

町では、町民の皆さんからいただいたご意見を今後の町政運営に生かすべく、十分に検討するとともに、現在策定中の「第9次森町総合計画(平成28～37年度)」の参考とさせていただきます。

フリートークで意見交換

太田町長はまず、マニフェストに掲げた「人口減少に立ち向かう」「財源を確保する」「人にやさしいまちをつくる」の3つの取組みに基づく事業として、ふるさと納税や乳幼児医療費助成など重点施策を説明しました。その後は、フリートーク式による活発な意見交換を行いました。皆さんからいただいた意見の主な内容は次のとおりです。

三倉地区 8月29日開催 三倉総合センター 参加者55人

問 学校の小規模化で学校職員を全国で増員するという話が出ています。森町の場合、学校を減らす必要はないし、校区の再編をする必要があるのではないかと。

答 【町長】特定の学校について「この小学校はどうするか?」ということではなく、森町全体の幼稚園・小学校・中学校の教育がどうあるべきかという観点で検討を進めていきたいと考えています。

答 【教育長】校区の再編、言葉を変えれば「小学校はどうなるのか」ということが、皆さんの一番聞きたいことだと思います。現在、森町全体で幼稚園児が約250人、小学生が約1,000人、中学生が約500人となっています。子どもの数の推移、地域の姿、校舎の耐震や建築年数など様々な側面から、森

太田康雄町長が、町内6地区に出向き、多くの町民の皆さんと直接ひざを交えて町政について語り合う「町長と語る会」。今月は、8月下旬から9月中旬に開催した4会場(三倉・天方・森・一宮)のようすを紹介いたします。

■問い合わせ先 役場総務課広報統計係 ☎851-6301

町の子どもたちがどういう環境で学ぶのが一番良いかを検討するために、今年は一歩進みたいと考えています。具体的には、有識者の実態調査を依頼する。その結果をもとに、地域と保護者、学校との話し合いの中で方向性を見つけていくという事です。これはあくまで、保護者・地域・行政の合意形成により進めるものであり、今すぐにではなく何年後かにはそうなっていく形を、皆さんに描いていただきたいと思っています。

問 田舎暮らしがブームとなっている。過疎問題は全国どこでも一緒なので、森が大好きという人を増やさなければならぬ。人口減少を防ぐ対策として移住者の受け入れ推進を。

答 【町長】都会からの移住を促進していくためには、森町をもっとPRしなくてはなりません。その一つの手段として、10月に行われる東京都江東区の区民まつり

天方地区 9月2日開催 天方生活改善センター 参加者59人

問 亀久保・鍛冶島は飲料用の水道を個人や共同で所有する集落があり、がけ崩れ等による設備補修は個人負担をしている。補助制度の見直しを。

答 【町長】水道については簡易水道や小規模飲料水供給施設、一軒のお宅で使うものなど規模はさまざま。簡易水道は、国の制度の縛りで自由にならないことがあるが、地方創生と言う以上、国にも制度の見直しをしてもらわなければならないし、小規模の飲料水設備の補修については、町の補助要綱も見直しをしていかなければと思います。これから都市部の住民を受け入れ、移住を進めるといふ時には、まず水は必ず必要となるので、その点も考えながら、検討していきたいと思っています。

問 私の子どもは袋井特別支援学校に通い、放課後は森町のどんぐり(学童保育)を利用していましたが、森町には、就労支援型の事業所がなく将来が不安。障がいを持つ子どもの母親たちは、自分で通える距離での就労施設を望んでいる。町の考えは。



天方地区のようす (天方生活改善センター)

答 【町長】お母さんにとっても、本当に心配な事だと思っています。「どんぐり」については、運営に携わるボランティアさんや、保護者の方から場所を固定してほしいという要望もあり、直ぐにとはいいませんが検討したいと思っています。就労支援施設については、森町が単独で出来るのか、他の市町と協力しながらやるのが出来るのか、いづれにしても必要性は十分理解しています。国・県の動向や、森町が使える制度をよく探しながら、障がいを持っていて森町に住めるように、そんな町づくりをしていきたいと考えています。



森地区のようす (文化会館小ホール)



一宮地区のようす (一宮総合センター)



問 磐田市の安久路公園に傾斜80度の滑り台があり、それに多くの家族連れが集まって来る。一宮でなくても森町内で老若男女が一緒に遊べる様な施設があれば、子育て中のお母さん方が住んでくれるのではないかと思う。ご検討願いたい。

答 【町長】 小さなお子さんから、お年寄りまで一緒に遊んで時間を過ごせる様な、遊具のある公園が必要だという声は、色々な所から

問 受け入れ先が無くて困っている。袋井市では、有害駆除で捕獲されて解体できないイノシシは中遠クリーンセンターで焼却処分しているの、森町も焼却処分できるように進めて欲しい。

答 【町長】 近年、イノシシの捕獲の頭数が非常に増え、年間200頭を超えています。町としても有害鳥獣で捕獲したイノシシ等の処分について検討をしており、中遠クリーンセンターにイノシシ等も持ち込めないか協議をしているところ。おそらくその様な形で実現すると思いますが、これから話を詰めますが、皆さんとお話をさせて頂きながら進めていきたいと思っています。

問 周智高校跡地は、森アリーナがあつても素敵な所。あの跡地を活用する方法を考えているか。

答 【町長】 グラウンド部分は先行して県から取得し、総合体育館(森アリーナ)を建設いたしました。校舎が建っている部分についても、町として県へ購入したいと要望を出しています。もともと高校があつた場所です。で、やはり文教地区に相応しい活用をしていきたいと考えています。テニスコートが必要だという案や、旧周智郡役所である歴史民俗資料館を、蓮華寺の境内から移築したいという案もあります。旧郡役所は明治18年の建築で、かつて周智郡の中心が森町にあった証である非常に貴重な建物です。ただし、どの案も決定という訳ではありません。取

問 得後の土地の活用については十分検討して、町民の皆さんに利用していただける場にしていきたいと思っています。

答 【そのほかの意見】 米倉地区に昭和池(溜池)に通じる町道があるが、舗装されておらず、車が通るにも苦労する状態。早急に道路を整備して頂きたい。

●遠江一宮駅の西側に工業団地の様な敷地があるがその隣接地に工業系のゾーニングをしたらいかがか。

●平成14年に作った防災マップですが、年数が経っているので、新しい防災マップを作って頂けないか。

●森町の内陸フロンティアについては、国・県・民間から人を引っ張って来て、もう少し具体的に積極的に推進して、目の覚めるような内陸フロンティアを実現して頂きたい。

●人口減少に歯止めをかけるため、若者が集まる学校を誘致したらどうか。

●園田地区(9月27日開催)と飯田地区(9月29日開催)については、広報もりまち11月号に掲載します。是非ご覧ください。



フリートークで町民の皆さんの意見に答える太田町長

問 森町人口ビジョンでは、2060年には1万3,000人を確保するとしている。一方、総合計画策定に向けたアンケートで「どうして森町に住みたくなのか」という質問に、交通の便が良い、買い物や通勤が便利という意見がある。働く場所が無い、交通の便が悪いという点を解消すれば人口減少の歯止めにつながると思う。その為には工業団地を戸綿・森地区に誘致し、新田赤松線だけでなく、森川橋からインターまでの道路を造るなど東西南北に楽に通勤が出来るような道路を整備する。こうすれば、企業も来るし、雇用も生まれる。早急にお願いをしたい。

答 【町長】 人口減少への対応策として、交通の便を良くする、働く場所を確保する事は大切な要素だと思います。現在、中川下の工業団地の整備を進めているほか、森町内にある遊休地、稼働していない工場跡地、空き地を改めて調査をして、企業誘致を進める材料を整えているところです。工業用地を造成して企業誘致をする、既にある工場跡地を活用して企業を誘致する、既存の森町にある工場の規模を拡張していただくなど、色々な方法に取り組みながら人口減少に歯止めを掛けていきたいと考えています。

問 【そのほかの意見】 森林をきれいにするため、間伐材の利用を推進する「山の中元気もりもりプロジェクト」を計画書にまとめた。町議会議員さんに提出してありますので、よろしく願います。

●早朝や深夜に災害が発生した場合、外の状況が把握しにくい、山の上にテレビカメラを設置したらどうか。

●原発再稼働は絶対反対。森町は浜岡原発からお金は受け取っていないと思うので、大いに見て大いに発言をして注視して欲しい。(提言として聞いていた)

問 一宮地区 9月13日開催 一宮総合センター 参加者 53人

有害駆除で捕獲されたイノシシの埋葬場所の

●ただで結構です。今の町営バスの体制では、本当の意味で町民の足にはなっていないし、見直しもされていない。

●世代間交流を推進できる場所を町で確保して欲しい。

●町と町民とのすり合わせが大切。行政でやれる限界はあるが「できません」では進んでいかないと。

問 吉川線と大河内線について、小学生はバス通学、高齢者は病院の通院などで利用している。少子化、子育て支援として小学生は無料化を、高齢者は利用料金を安くしてもらいたい。

答 【町長】 自主運行バスについては実際には経費がかかりかかっており、無料化については「はい」とは言えません。小中学生の通学については、一定の距離以上のご家庭に補助を行っています。

●太田川ダムの完成後は吉川

の水が濁るなど、昔と比べて川が変わってきている。この状況を町はどのように考えているのか。

●町内6地区毎に自治組織を置き、公民館などを拠点に、住民自らが地域課題の解決に取り組む「小規模多機能自治」の仕組みを作ってほしい。

●森町総合戦略で従業員数を平成31年までに1,000人増やすとしているが、その為には大学生、高校生、卒業生の方をターゲットにするべき。森町に就職してもらうための支援策をどう考えるか。

森地区 9月9日開催 森町文化会館小ホール 参加者 75人

●子どもが天方小に通っているが、今後はどうなるのか？

●昔の子どもは、田んぼや川で勝手に遊んでいたが、今はそういう時代ではない。子どもたちが安心して遊べる公園を作ってほしい。

●かわせみ湖には珍しい鳥が来ている。この景観の有効利用について考えはあるか。

答 【町長】 人口減少への対応策として、交通の便を良くする、働く場所を確保する事は大切な要素だと思います。現在、中川下の工業団地の整備を進めているほか、森町内にある遊休地、稼働していない工場跡地、空き地を改めて調査をして、企業誘致を進める材料を整えているところです。工業用地を造成して企業誘致をする、既にある工場跡地を活用して企業を誘致する、既存の森町にある工場の規模を拡張していただくなど、色々な方法に取り組みながら人口減少に歯止めを掛けていきたいと考えています。



膝を交えたフリートークのようす